

令和7年度事業報告について

令和7年度は、パイプオルガンのオーバーホールを実施した。開館から24年が経過し、一部のパイプに経年劣化による歪みが発生したため、ほぼすべてのパイプを取り外し清掃や調整を実施した。工事中はコンサートホールを休館していたが、休館中も邦楽ホールを会場にOEKの特別定期公演を実施し、引き続きOEKの公演を楽しんでいた。このほかガルガンチュア音楽祭への出演や、能登半島地震の復興応援コンサートなどの被災地支援活動にも取り組んだ。

また、池辺晋一郎監督監修のオーケストラと邦楽器の演奏が融合した公演や、野村萬斎監督演出・出演の能とオーケストラが共演する公演の全国ツアーなど、多彩な公演を実施した。

1 オーケストラ運営事業会計（公益目的事業会計1）（ ）＝県外公演数（内数）

区 分		令和7年度実績	摘 要
1 オーケストラ運営事業			
自主公演	定 期 公 演	20（3）公演	県内、東京、大阪、名古屋 県内、富山、福井等
	特 別 公 演	44（17）公演	
	ファミリー公演・入門コンサート	1（0）公演	
	新人登竜門コンサート	1（0）公演	
	小 計	66（20）公演	
依頼公演	小・中学校公演	15（3）公演	県内、富山、岐阜
	市町・企業等依頼公演	22（6）公演	
	小 計	37（9）公演	
		合 計	103（29）公演
小編成による室内楽公演		119（9）公演	
2 ジュニア・アマチュアオーケストラの育成振興事業		○ジュニア・オーケストラの技術指導等振興事業 ・5月5日（祝）ガルガンチュア音楽祭 ・3月22日（日）定期演奏会 ・3月31日（火）オーケストラの日	
3 その他、音楽文化を通じて地域振興に寄与する事業		○楽器技術講習会の開催 ・5月18日（日）穴水中学校 ・12月1日（月）県立音楽堂 ○オーケストラ・アンサンブル金沢合唱団の育成 ・4月29日、5月5日 ガルガンチュア音楽祭 ・11月23日 オペラ「高野聖」 ○能登半島地震被災地への慰問公演の実施	
・楽器技術講習会			
・合唱団の育成			
・ボランティア公演実施			

令和7年度 オーケストラ・アンサンブル金沢の特徴的な事業

- (1) 北陸新人登竜門コンサート 弦・管・打楽器部門
5月18日(日) 石川県立音楽堂コンサートホール
- (2) ガルガンチュア音楽祭2025への出演
4月29日(火祝)～5月5日(月祝)開催 石川県立音楽堂コンサートホール他
オーケストラ公演：7公演(オープニングコンサート1公演を含む。)
- (3) 世界的アーティストとOEKとの共演
6月21日(土) 指揮：イェルク・ヴィトマン(ドイツ)
12月4日(木)、5日(金) ホルン：ラデク・バボラーク(チェコ)
1月30日(金)、31日(土) ピアノ：アレクサンドル・メルニコフ(ロシア)
- (4) 世界で活躍する日本の若手アーティストとの共演
11月14日(金)、15日(土) 指揮：岡崎広樹
2月20日(金)、21日(土) 指揮・ピアノ：北村朋幹
- (5) 能登半島地震復興応援コンサートの実施
4月5日(土)～3月20日(金祝) 県内外18公演(フルオーケストラ公演)

2 音楽堂自主事業会計(公益目的事業会計2)

石川県立音楽堂自主事業を3ホール合わせて21事業を実施

洋 楽 の 部	邦 楽 の 部	交流ホールの部
音楽堂リサイタルシリーズ (年間3回) ランチタイムコンサート (年間6回) 小中学生のためのコンサート (8月) ステージアートの世界(12月) 和洋の響(2月) 他5事業実施	萬斎からのメッセージ(7月) 邦楽と舞踊の会(8月) 新春芸能玉手箱(1月) MANSAI CREATION BOX ～萬斎のおもちゃ箱～(10月) 子ども邦楽アンサンブル 他2事業実施	音楽堂フェスタ 〔親子で楽しめる伝統芸能 等の体験イベント(8月)〕 カルチャーナビ 〔クラシック音楽講座や 芸能講座 年間5回〕 障がい者支援ワークショップ& コンサート 〔障害のある児童生徒を対象 とした参加型イベント(11月)〕 他1事業実施
計10事業	計7事業	計4事業

3 音楽堂管理会計(公益目的事業会計3 及び 収益事業会計)

石川県立音楽堂の管理運営(県から指定管理者に指定：令和5年4月1日～令和10年3月31日)

年間ホール利用 コンサートホール 183日
(本番・練習) 邦楽ホール 227日 総入場者数243,121人
 交流ホール 262日

4 当期収支について

【オーケストラ運営事業会計（公益目的事業会計１＋法人会計）】

パイプオルガンのオーバーホールに伴うコンサートホールの休館のため、定期公演の開始時期を９月から４月へ変更したことに伴い定期会員収入が減となったこと、金沢歌劇座などの他会場利用の費用や資材、人件費の高騰による費用増により、当期収支は赤字決算となった。

当期一般正味財産増減額：△４７，４２９，５１０円

なお、単年度の資金ベースの収支を表す収支決算書においては、オーケストラ運営事業準備資金の取崩額５２，７４５千円を加え、５，８００千円の黒字となる。

【自主事業会計（公益目的事業会計２）】

コンサートホール休館に伴う代替会場の確保や、物価上昇による舞台設営費の増加などにより、当期収支は赤字決算となった。

当期一般正味財産増減額：△２７，８４１，４４７円

【管理会計（公益目的事業会計３＋収益事業等会計）】

コンサートホールの休館により使用料収入は減少したものの、邦楽ホール・交流ホールの使用料収入や駐車場収入が増加したことにより、当期収支は黒字決算となった。

当期一般正味財産増減額：３，５４７，３５６円

【全体の収支】

公３会計が黒字決算となったが、２会計の赤字額が大きいいため、事業団全体の当期収支は赤字決算となった。

当期一般正味財産増減額：△７１，７２３，６０１円（詳細は次頁以降参照）

5 特定費用準備資金の状況について

新型コロナウイルスに関する補助金等の収入増加により、令和元年度から令和３年度にかけて、公益目的事業会計において黒字額が発生し、公益認定基準のひとつである「収支相償」を満たしていない状況となったことから、令和６年３月の理事会において２７９，０００千円、令和７年３月の理事会において７３，０００千円を特定費用準備資金に計上し、計画的に執行することとした。

この積立額については、令和７年度において、専門人材の確保・育成に２３，９４５千円、OEKのPR強化に８，８００千円、震災復興支援に１０，０００千円、若手演奏家の支援等に１０，０００千円、合計５２，７４５千円を取り崩して執行した。

また、令和８年３月の理事会において、令和５年度分の黒字額の一部である４０，０００千円についても同様に特定費用準備資金に計上し、計画的に執行することとしたところである。